

ユネスコ/日本ESD賞について

より良いESDの取組に向けた動機付けと、優れた取組を世界に広めることを目的とし、日本政府の財政支援により2014年に創設。ESDユネスコ世界会議（2014年11月、愛知県名古屋市で開催）において創設を発表。

- (1) 期間： グローバル・アクション・プログラムが実施される2015-2019の5年間
- (2) 奨励金： 1件当たり5万米ドル
- (3) 受賞対象： グローバル・アクション・プログラムの五つの優先行動分野のうち、一つ以上の分野で活発に関与している個人又は団体
- (4) 公募・選考： ユネスコ加盟国又はユネスコNGOの推薦（3件まで）に基づき、外部有識者から成る審査会による選考を経て、事務局長が決定
- (5) 選考基準：
 - ①社会的な変化を促す取組がなされていること
 - ②社会、経済、環境の3つの分野を一体的に取り扱っていること
 - ③革新的なアプローチを採用していること

(参考) 2016年の受賞プロジェクト

- 岡山ESDプロジェクト
市民団体、NPO、教育機関、企業及び行政等の機関からなるESD推進協議会が実施主体となり、地域に根ざしたESDを市全体で推進している。公民館や学校を拠点としたコミュニティにおけるESDの実践やESD岡山アワード等、自治体全体で取り組む「ホール・シティー・アプローチ」を実践。
- “Integrated ESD schemes in schools and communities in Cameroon” (カメルーン): 青少年(ユース)により設立された非営利団体であるCCREADによる事業。社会から取り残された子ども、女性等を対象とし、学校やESDコミュニティ学習センターの事業を通じ、彼らの社会、経済、文化面でのエンパワーメントによる貧困と健康への脅威の削減、ガバナンスの向上、環境保護を目指すもの。
- “Green Impact” programme(イギリス): 全英の600の学生組織の連盟であるNUSによる事業。大学における持続可能な社会の構築に向けた取組を認定し、表彰するなど、学生が主体となり運営されている。